

歯つぴー(熊本市、小山昭則社長、096・343・3265)は、歯垢や歯石を赤く光らせるライトを開発した。口の中の細菌が特定の光に反応する仕組みを応用。歯の汚れを簡単に確認できるほか、介護施設における歯磨きなどで活用できる。同社は歯や歯茎の画像から歯周病を判定するシステムも開発し、口腔ケア分野で存在感を示している。

医工連携で行こう! 成長市場に挑む

は光誘導蛍光定量(Q-Lite)法と呼ばれる技術を応用し、歯垢や歯石を赤く浮かび上がらせるライトを開発。特定の波長や光量、屈折率に調整した光が細菌と反応する。

薬液の塗布不要
 「私たちが考えた、なんとなく歯を磨いている」と、小山社長は指摘する。歯の汚れをきちんと落とさないと虫歯や歯周病になる可能性がある。歯つぴー

歯つぴー

■ 歯垢や歯石を光らせるライト ■



口内の細菌がライトの光に反応する仕組みを応用し、歯の汚れが分かる

液の塗布やうがいが必要なく、介護を受ける人、介護者の双方の負担を軽減できる。利用した介護現場からは、とても利便性が高いと評判だという。現在は、同ライトを使った介護プランの策定に、宮崎市と共同研究を行っている。人工知能(AI)

口腔ケア分野で存在感

要介護者・現場担当者の負担軽く



歯垢や歯石を赤く光らせるライト

しに歯周病の特徴をなくが誤って気管や肺深層学習させ、画像から入り込む誤嚥性肺炎が見つけ出す。すでに、口内の細菌を減らす導入が進んでおり、複すことで悪化を防げる。地方自治体が特定の高齢者の口腔ケアを後押しする。例えば、宮崎市の歯垢や歯周病、誤嚥性肺炎の予防に有効だ。介護保険制度では特定量の減ると、虫歯などを実施すれば「事業所になりやすい。食べ物評価加算」という項目

で報酬が付く。今後は全国の介護施設や歯科医院を対象に、同ライトや歯周病を判定するソフトウェアの普及を目指す。同社のウェブサイトを通過の普及も手がける。小山社長が口腔分野に関心を持ったのは、16年の熊本地震がきっかけだ。災害ボランティアに参加し、寝たきりの人の歯を磨いた。「他人の歯を磨いたのは初めて」(小山社長)で、そこを磨けばいいか分からなかった。その問題意識が起業につながったという。同ライトは動物にも使用できる。同社は歯科医師や獣医師と動物向けの口腔ケアに関する研究も行う。飼育主にペットの歯磨きを促す狙いがある。小山社長は同ライトの多くがペットのケアを目的に売れていると明かす。口腔ケア市場の裾野は広がっている。